

日本気象学会

関西支部 ニュース

関西支部 第32回 夏季大学報告
日本気象学会 2010 年度秋季大会報告
第4回気象サイエンスカフェ in 関西
報告
2010 年度の例会報告
会員種別について
メールアドレス登録のお願い
住所変更届のお願い
(社)日本気象学会入会案内

〒 540-0008

大阪市中央区大手前 4 丁目 1-76

大阪合同庁舎第4号館

大阪管区气象台内

日本気象学会関西支部

振替 00980-5-18318

TEL (06) 6949-6322

FAX (06) 6944-2121

ホームページ：

<http://www.k3.dion.ne.jp/~msj-knsi/>

メールアドレス：

msj-kns@s2.dion.ne.jp

(注：メールアドレスはスパム対策のため全角で記して
います。メール送信の際には半角で入力してください。)

関西支部第32回夏季大学 報告

2010 年 8 月 28 日(土)に、京都駅前のキャンパスプラザ京都の第3講義室(4F)で夏季大学を開催しました。今回のテーマは「台風」で、以下のとおり3つの講演が行われました。

日本気象学会関西支部 第31回 夏季大学 「集中豪雨とメソ気象」

8月28日(土) 10:00~17:00 (於：キャンパスプラザ京都(京都駅前)4階第3講義室)

1 「台風の基礎」

上野 充 氏 (気象研究所物理気象研究部部長)

2 「台風予測の最前線」

國次 雅司 氏 (気象庁予報部予報課太平洋台風センター所長)

3 「台風の高分解度シミュレーション」

坪木 和久 氏 (名古屋大学地球水循環研究センター准教授)

昨年に引き続き、今年の夏季大学も週末の土曜日1日の開催としました。今回の受講者は昨年とほぼ同じ86名で、講義室はほぼ満員となりました。受講者の年齢層も幅広く、質問の時間には数多くの質問が挙がりました。

まず、上野氏による「台風の基礎」の講義では、台風の発生、発達、移動、構造に関する基礎的な知識をわかりやすく解説するとともに、台風に関する最新の知見について説明がありました。第2講座の國次氏による「台風予測の最前線」の講義では、気象庁が発表する台風の進路予報が3日先から5日先までに延長されたことを中心に、台風解析・予測情報作成に関する最新の状況を解説されました。そして、第3講座では、坪木氏が温暖化に伴う台風の変化について講義を行いました。講義では、現在進められてある雲解像モデルを用いた研究を紹介して、高解像度シミュレーションによりこの問題にどのように挑んでいるのかを解説されました。

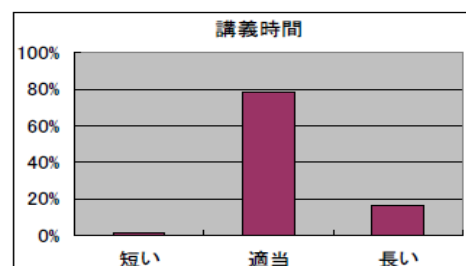
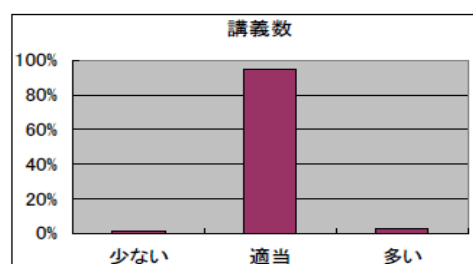
参加者に対するアンケート結果は次のとおり(回収率91%)。

参加者は、男性が全体の9割に達し、女性の参加者が昨年に比べて減少しました。年代でみると20代と40代が多く、50代未満の割合が増えて6割を超えました。全体の8割が近畿から参加しましたが、それ以外の地域の参加者の割合は過去3年で最も高く、富山県や広島県、遠くは首都圏や福岡県から参加した方もいました。また今年は、会社員の参加者が全体の45%で最も多く、これまでにない大きな特徴でした。

夏季大学に参加した感想を尋ねると、講義数および講義時間が「適当」と回答した参加者が非常に多かったものの、講義時間が「長い」と回答した参加者の割合がこれまでに比べて高くなりました。2日間の開催を望む声もありましたが、週末の1日開催を支持する参加者が多かったようです。それぞれの講義の難易度と分かりやすさについては、昨年に



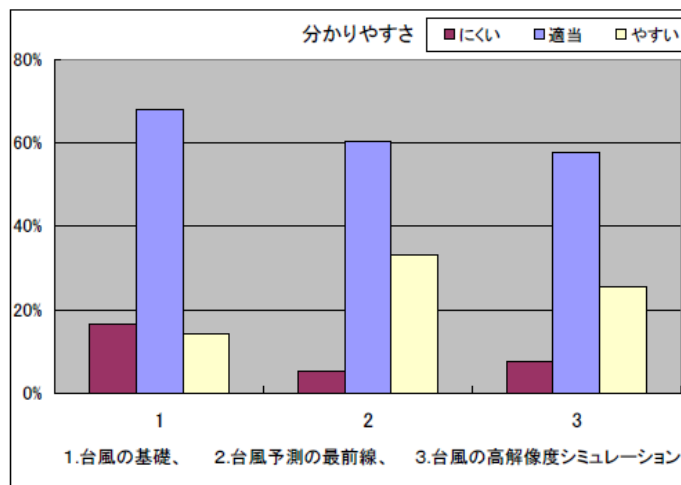
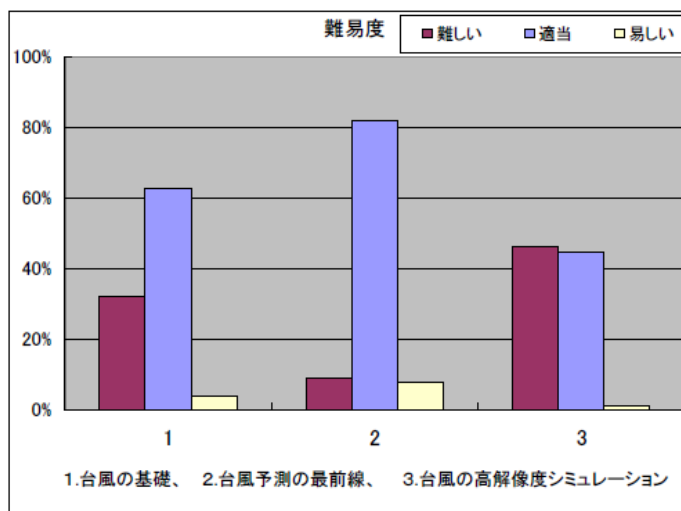
講演する上野氏(上)、國次氏(中)、坪木氏(下)



比べて難易度が「難しい」と答えた参加者の多い講義もありましたが、分かりやすさは全講座とも「適当」が最も多く、「分かりにくい」と回答した参加者の割合は前回は下回りました。これは、参加者のレベルが上がっていることを示しているのかもしれない。

また、夏季大学で今後、取り上げてほしいテーマを尋ねたところ、天気予報、気象災害、気候変動がそれぞれ2割弱で、その他にも色々なテーマが挙がりました。

今回のアンケート結果をもとに、関西支部では、多くの皆さんに満足していただける夏季大学を企画していきたいと思えます。来年度の夏季大学にも多数の皆様のご参加をお待ちしております。



日本気象学会 2010 年度秋季大会報告

2010 年度秋季大会は、2010 年 10 月 27 日～29 日に京都テルサを会場として開催されました。参加者（前納登録者と当日受付者の合計）は 910 名で、秋季大会としては過去最多の参加人数となりました。

関西支部の常任理事や幹事を中心としたメンバーで結成された実行委員会が、大会の準備・運営にあたりました。約 2 年半前の会場予約に始まり、シンポジウムの企画、会場の準備やスタッフの確保、そして大会当日の受付、口頭発表やポスターセッションの会場運営、懇親会の幹事などを行って無事に大会を終えました。関西支部では、これらの経験を 5 年後に再び関西で開催される秋季大会に活かしていきたいと考えています。



シンポジウム「大気圏のさまざまな境界面での相互作用」の様子。壇上は、司会の向川 常任理事

第4回気象サイエンスカフェ in 関西報告

サイエンスカフェは、科学者などの専門家と一般の市民が飲み物を片手に気軽に科学などの話題について語り合うコミュニケーションの場です。

今回、第4回気象サイエンスカフェ in 関西を2011年1月29日に大阪の路地カフェにて、日本気象学会関西支部と日本気象予報士会関西支部の共催で開催しました。当日の参加は27名。会場はほぼ満席になりました。ゲストに関西航空地方気象台予報課長の金田芳彦さんを招き、

「航空と気象の関わり」と題して話題提供していただきました。

金田さんからは、はじめに航空機の運航に関係のある気象について、過去の航空事故の教訓をまじえながら気象と航空機の運航についてお話をいただきました。風向きと滑走路の離着陸の方向の関係から始まり、霧、低い雲、気温、気圧、風、雨、雪、着氷、雷、乱気流、火山の噴煙など、さまざまな気象が航空機の運航に影響を与えていることを一般の人にもわかりやすく話をしていただきました。話の内容は気象学のほか「飛行機はなぜ飛ぶのか」といった航空工学まで及び、航空や気象に関心のある方にはまたとない機会となったようです。その後、気象庁の航空気象官署の観測、予報業務について説明をいただきました。参加者からは航空気象の観測や予報精度などについて熱心な質問が出て、「観測や予報など判断基準があっても、最後に判断するのはパイロット」など興味深い話題になりました。

1時間半の短い時間でしたが、参加者から好評の意見をいただき、第4回気象サイエンスカフェを閉会しました。
(常任理事 岡留 健二)



講演する金田氏と参加者のみなさん

2010年度の例会報告

<第1回>中国地区

第1回例会を、2010年11月6日(土)に岡山大学環境理工学部で開催しました。天候にも恵まれ、本例会へは昨年を上回る計59名が参加しました。一般講演では大橋唯太会員(岡山理科大学)、塚本修会員(岡山大学)、山下栄次会員(岡山理科大学)による座長のもと、20題が発表されました。テーマは降水、浮遊粉じん、都市気候、霧、森林や水田のCO₂・水蒸気フラックス、森林



特別講演の様子

火災、台風、温熱環境、気象教育などバラエティーに富み、異なる研究分野どうしの交流にもつながりました。特別講演では岩田徹会員（岡山大学）を座長に、山本晋教授（岡山大学）によって「陸域生態系の炭素固定プロセスと炭素収支」が講演されました。山本教授は今年度で大学を定年退官されるご予定で、これまで長年進められてこられた植生群落のCO₂吸収に関する観測調査を中心に紹介していただきました。そのなかで、数値モデリングの話も含め、気象観測や生態学的調査によって得られた現状の理解と今後の研究展開について、多くのご見解を説いていただくことができました。

発表件数が多く、1件あたりの質疑応答にじゅうぶんな時間を取ることが難しかったです。例会終了後に大学構内のピーチユニオンで開かれた懇親会で発表内容に関する議論も続けられました。多数の気象台・大学の関係方々に参加していただき、普段にない交流の機会にも本例会が十分な役割を果たしたと思われま。最後に、特別講演を引き受けてくださった岡山大学の山本晋教授と、発表会場並びに懇親会の手配と運営すべてをおこなってくださった岡山大学の岩田徹会員と研究室の大学院生・学部生の皆様、また、例会の運営に御支援と御協力をいただいた多くの皆様方に対して、心より御礼を申し上げます。

（中国地区理事 大橋唯太）

<第2回>四国地区

日本気象学会関西支部の2010年度第2回例会を、愛媛県県民文化会館（ひめぎんホール）第5・第7会議室で開催しました。今回の例会では、後述するシンポジウムを企画したことから、愛媛県の防災情報関係部局へも（開催間近の時期であったが）案内し、一般公開という方式をとりました。愛媛大学、高知大学、香川大学、岡山大学、松山地方気象台、高知地方気象台、高松地方気象台、NHK松山放送局、及び日本気象予報士会四国支部の計40名を含めて50名前後の参加者がありました。



四国地区例会の一場面

例会前半の一般講演では、線状降水帯に関する統計解析、事例解析、及び数値実験、並びにやまじ風発生に関する観測研究、竜巻事例、四国及び周辺地域の局地気候、降水域など、計8件が、西川敦氏（愛媛大学）および森滋男（高松地方気象台）の座長のもとに行われた。四国の気象災害や気象特性に直接関わるものなども含め興味深い話題ばかりであり、活発な議論が行われました。

例会後半は、例年の特別講演に替えて「防災への新たなアプローチ - 最近の防災気象情報や四国の気象学研究の動向 - 」と題したシンポジウムを開催しました。四国が、地域毎に異なる気候学的特性を有し、これによって気象災害の特性も地域毎に異なっているが、このことを四国内での共通認識として共有して、気象関係者が相互に連携を図っていくことを目的としました。2010年5月27日から気象庁が市町村を対象とした気象警報の発表を開始しており、このシンポジウム開催のタイミングとして適当と判断して、地元気象関係者の理解と支援をいただき、開催にこぎつけたものです。

このシンポジウムを発案下さった佐々浩司氏をコーディネータに迎え、渡辺志伸氏（高知地方気象台）、寺尾徹（香川大学）、及び横林良純氏（NHK松山放送局）によって防災気象情報の技術基盤、四国の気象災害特性、及び防災気象情報の報道の工夫に関する基調講演が行われました。横林氏は、市町村警報のテレビ画面での表示に関して、部内での試行錯誤から現在の画面構成になるまでの検討経過を、映像も交えて説明下さいました。それに続いて、水野善夫氏（高松地方気象台）及び長谷川和美氏（松山地方気象台）が、四国の気象特性に応じた予報作成現場、やまじ風予測を含む府県気象情報などについて補足説明しました。その後、これらの方々会場参加者を交えて、パネルディスカッションを行いました。大学での気象学が純学術的であるだけでなく、国民が期待している防災との関わりといった学際的な分野にも発展し、他分野の研究者と学問的交流を深めることも必要との発言もありました。このシンポジウムによって、四国地域の気象特性等への理解が深まり、また気象研究の方向性などについて様々なヒントを得られたのではないかと感じられました。地区理事として、このシンポジウムが学・官共同の一層の推進のきっかけとなることを期待したいと思います。

最後になりますが、開催にあたりご尽力いただいた松山地方気象台の松長高雄氏、アルバイト手配や当日の会場設営・運営にご協力下さった西川敦氏、会場設営にご協力下さった日本気象予報士会の一広志氏、シンポジウムを発案し、全体をリード下さった高知大学佐々浩司氏、基調講演や補足説明に前向きに取り組み丁寧に対応下さった5名の方々、パネリストの手配にご協力下さったNHK松山放送局の向野哲氏、運営に積極的に取り組んで下さった愛媛大学の学生の皆様、及び例会を積極的に支援下さった松山地方気象台の皆様に、改めて御礼申し上げます。（四国地区理事 森滋男、寺尾徹）

<第3回>近畿地区

日本気象学会関西支部と海洋気象学会の合同例会を、2011年3月4日（金）13時から17時過ぎにかけてキャンパスプラザ京都（京都市下京区）4階第3講義室において開催しました。日本気象学会と海洋気象学会の構成員を中心に、15名が参加しました。

講演内容は、主に大気に関するもの（大阪府の濃霧の解析、北西太平洋域の循環偏差と中高緯度大気循環の予測可能性の関連、成層圏突然昇温と環状モードの予測可能性の関連）と、海洋に関するもの（富山トラフ周囲の海潮流、富山湾の海洋構造、神戸港の波浪特性）とに分けられ、計6題の発表が行われました。

講演は2部に分けられ、第1部は石岡圭一会員（京都大学大学院理学研究科）、第2部は根本和宏会員（神戸海洋気象台）がそれぞれ座長を務めました。参加人数が少なかったものの、逆に各講演時間や質問時間が長めに確保できたこともあって、熱心な発表と活発な議論が展開されました。また、時期的に、ちょうどまとまったばかりの修論研究に基づくレベルの高い発表もありました。



講演の様子

TEL : 03-3212-8341 (内線.2546) FAX : 03-3216-4401

ホームページ: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/msj/Form/nyukai-j.html>

入会申込書 (個人用)				(社団法人)日本気象学会 FAX : 03-3216-4401				
(太線の枠内だけを記入して下さい)								
個人会員番号		所属支部		受付日	20	年	月	日
				承認日	20	年	月	日
フリガナ				生年月日	19	年	月	日
姓 名				職業				
性 別	1. 男	2. 女						
郵便物の送付先								
〒	-			(電話)				
現住所 (郵便物の送付先と同じ場合は記入しなくてよい)								
〒	-			(電話)				
勤務先または大学名 (部署、学部等詳細に) (郵便物の送付先と同じ場合は記入しなくてよい)								
〒	-			(電話)				
入会時の「天気」への「住所」の掲載								
1. 郵便物の送付先 2. 現住所 3. 勤務先・大学名 4. 掲載を希望しない								
電子メールアドレス _____ @ _____								
(学会メーリングリストへの登録は学会HP(http://wwwsoc.nii.ac.jp/msj/)からお申し込み下さい)								
会 員 種 別 (希望の記号を○で囲む。賛助会員は会費(4万円以上)を記入)								
1. 通常A (一般) 11. 特別A (一般) 共に (会費 6,900円、「天気」を無償配布) 2. 通常B (一般) 12. 特別B (一般) 共に (会費12,600円、「天気」と「気象集誌」を無償配布) 3. 通常A (学生) 13. 特別A (学生) 共に (会費 4,200円、「天気」を無償配布) 4. 通常B (学生) 14. 特別B (学生) 共に (会費 8,100円、「天気」と「気象集誌」を無償配布) 5. 通常A (高年) 15. 特別A (高年) 共に (会費 4,200円、「天気」を無償配布) 6. 通常B (高年) 16. 特別B (高年) 共に (会費 8,100円、「天気」と「気象集誌」を無償配布) 17. 特別C (会費 6,600円、「気象集誌」を無償配布) 注① 通常会員には総会での議決権、役員に関する選挙権などがあり、特別会員には有りません。 ② (高年)会員は本人がこの種別を希望し、前年12月末に65歳以上に達してい個人です。 31. 賛助会員 (会費 万円、「天気」と「気象集誌」から希望のものを無償配布)								
希望支部 (外国在住者のみ記入。希望なしは関東支部。(国内在住者は自動的に決定されます))								
1. 北海道 2. 東北 3. 関東 4. 中部 5. 関西 6. 九州 7. 沖縄								
機関誌の配布開始希望月 (年途中からの会費は月割りとなります)								
天 気	巻	号から	気象集誌	巻	号から			
定期購読希望 (機関紙以外の刊行物)								
気象研究ノート	1. 希望する (号から)			2. 希望しない				
大会予稿集	1. 希望する (年春から / 秋から) (号から)			2. 希望しない				
来年からの会費納入方法								
1. 郵便口座からの引落とし 2. 銀行口座からの引落とし 3. 郵便局からの振込み 注① 1. 2. の場合は折り返し必要書類をお送りします。記入のない場合は、3. とします。 注② 手数料が安く、全国的に利用できる1. がお勧めです。								
通信欄 (その他)								
月 割 り 会 費	号数	単価	小計	(月割り会費の単価)				
天気		円	円	天気 : 一般 580円、学生・高年 350円。				
気象集誌		円	円	気象集誌 : 一般 950円、学生・高年 650円、 特別C 1,100円。				
合計			円					

(2004.12版)